

群 教 七	G14 - 02
	平 20.240集

将来への見通しをもって生活できる生徒の育成 を目指した総合的な学習の時間の指導の工夫

- 働く人々の思いを取り入れた将来マップの作成を通して -

長期研修 研修員 松原 裕

(研究の概要)

本研究は、働く人々の思いを取り入れた将来マップを作成することを通して将来への見通しをもって生活できる生徒の育成を目指したものである。具体的には働く人々とのふれあいから感じた働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いをまとめたり、話し合ったりした内容を将来マップに取り入れていくことで、将来の夢や目標に向けての具体的な努力点を見だし、将来への見通しをもって生活しようとする意欲をもたせる実践である。

キーワード 【将来マップ 生き方探究 話し合い活動 職場見学 総合的な学習 中学校】

主題設定の理由

総合的な学習の時間では、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむために、横断的・総合的な学習となることを目指している。新学習指導要領では、時数が削減されつつも内容を精選し、体験的な学習に配慮して探究的な学習となるよう充実を図ることを求めている。そして、中学校の学習活動には「職業や自己の将来に関する学習活動」を新たに付け加えるなど、自己の生き方を考えることができるようにすることを目標としている。

社会では、上級学校での不適応生徒の増加、ニート、フリーター、早期離転職などが問題となっている。協力校の卒業生にも将来への目標をもてなかったり、考えられないまま進学した結果、進学後の生活に適應できない生徒がいる。

その理由の一つとして、これまので進路学習が仕事内容や進学に関することに重点を置きすぎていたからではないかと考えられる。職場見学学習では仕事内容をまとめることが中心となり、職場体験学習では、体験するということが重点が置かれてきた。将来の夢や目標をもたせたり、仕事に就きたいという意欲をもたせる内面的な指導はあまり行われてこなかった。

そこで、将来について意識し始めるこの時期に、将来への夢や目標をもたせたり、目的をもって職業に就こうとする気持ちをもたせたりするために、働く人々の仕事に対する思いや願い、喜びや誇りといった生きがいを感じたり、仕事に就くまでの経緯など、内面的なことを知ることが大切であると考えられる。生徒が望ましい職業観・勤労

観を身に付け、将来の夢や目標をもち、それを達成するために何をすればよいのか、今の自分を見つめ直して目標に向けて見通しをもって努力していこうとする意欲をもたせることが大切である。

そこで、中学校3年間の総合的な学習の時間を以下のような配列で計画した。

第1学年は、働く人々とのふれあいの中で仕事に対する思いや願いを感じ、将来への見通しを考える。第2学年は、就業体験することで、仕事に対する思いや願いに触れ、将来への見通しをもつ。そして、第3学年では、学習で身に付けた職業観・勤労観を基に、将来への進路を主体的、具体的に考える、という段階を踏んでの学習を設定した。

これを受け、本研究では、第1学年の「生き方探究」において、将来マップに働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いを取り入れることとした。この将来マップを作成することを通して働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いを知り、今の自分を見つめ直すことで将来の夢や目標の実現に向けて具体的な努力点を見だし、これからの生活の中で努力していこうとする意欲をもった生徒を育成することができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

将来マップに、働く人々と触れ合う活動から感じた働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いを取り入れることで、将来の目標に向けての具体的な努力点を見だし、将来への見通しをもって生活することができるようになることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 「つかむ」過程で、「将来マップ」の作成を行うことにより将来への意識を高め、そして、働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いに触れ、それらについて話し合うことにより、働く人々の思いや願いを探ろうとする意欲も高まり、自己課題に設定することができるであろう。
- 2 「追究する」過程で、仕事調べの後に「将来マップ」の作成により将来に向けての進路や必要な資格などを明確にするとともに、職場見学で働く人々と触れ合ったり、職場を見たりして、働く人々の仕事に対する思いや願いを感じることができるであろう。
- 3 「まとめる」過程では、自ら探った働く人々の仕事に対する思いや願いをまとめたり、それらを話し合う活動を通して、働く人々の仕事に対する思いや願いについての考えを深め、広げることができる。そして、それを基に「将来マップ」の作成を行うことで、将来の夢や目標に向けて具体的な努力点を見いだすことができ、将来への見通しをもつことができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 基本的な考え方

生徒が将来への見通しをもって生活することができるようになるためには、望ましい職業観・勤労観を身に付け、働く人々の生きがいを感じることが大切である。そして、将来の夢や目標に向けての具体的な努力点を見いだすことが必要である。そこで本研究では図1に示すように、将来への見通しをもつことができるようにするために、話し合い活動や体験活動を基にした将来マップの作成を行う活動を取り入れることとした。

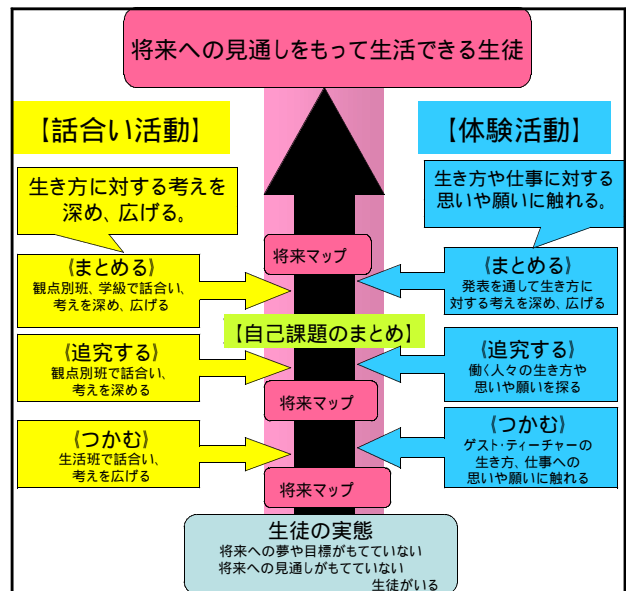


図1 研究構想図

(2) 将来への見通しをもって生活できる生徒とは将来の夢や就きたい職業などといった目標をもつというだけではなく、その夢や目標をかなえたいという気持ちをもつことが大切である。その上で、ありのままの今の自分を受け入れ、大切にするとともに将来の夢や目標の実現に向けての具体的な努力点を見だし、将来に向けて努力しようとする生徒ととらえる。

(3) 「生き方探究」の指導の必要性について

中学生になると、生徒は自分の身の周りの人々の職業や仕事の様子に目を向けられるようになってくる。また、将来の職業生活に対しても少しずつ自分なりのイメージももてるようになってくる。そこで、図2に示すように中学校では、小学校で身近な産業や職業の様子を理解できるようになってきたことを踏まえ、そこに携わる人々の生き方や仕事に対する思いや願いを理解できるようにすることが大切である。職業や仕事内容、必要な資格から働く人々へと視点を変え、その人の生き方を理解することで、共感したり、考えを広げることができる。このことが将来の夢や目標に向けてのこれからの生活に大いに役立つと考えられる。そのために、中学校の3年間で段階を踏んで望ましい勤労観や職業観を身に付けることがこれからの進路選択や、近い将来の職業生活を有意義なものにするために重要である。

そこで、第1学年において、働く人々の生き方や仕事に対する思いや願い、生きがいや充実感、苦労や工夫などを知ることは、中学校3年間で身

に付ける望ましい勤労観や職業観の基礎となるものである。

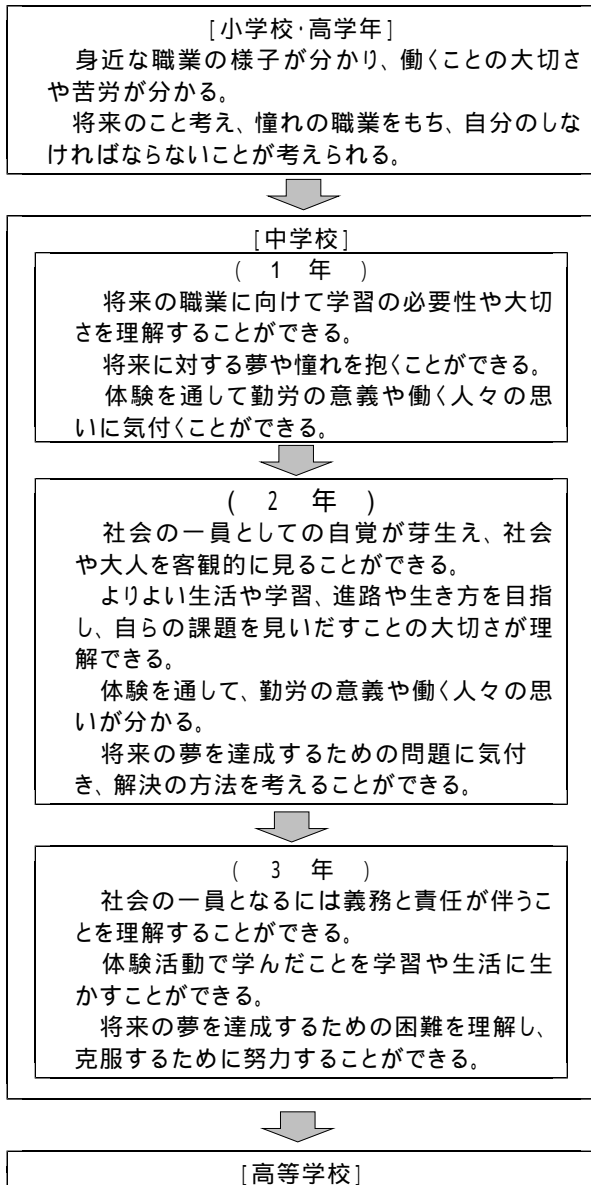


図2 キャリア発達の特徴

注:「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き」(2008 文部科学省)を参考に作成

(4) 将来マップ

将来マップの構造

将来への見通しをもつことができるようになるために、図3のように将来に向けての進路(自分の姿)と具体的な努力点(生活の目標)を1枚のマップに表せるようにした。

左下の「現在」を今の自分とし、右上の「10年後のなりたい自分」を将来の姿や目標とする。左側の「自分の姿」の欄には、10年後のなりたい自分に向けて、1、3、5年後の自分の姿や具体的な進路を書き込む。右側の「生活の目標」の欄には、なりたい自分の姿に向けての具体的な努力点

を、取り組みやすさも考えて書き込んでいく。取り組みやすいことや簡単にできそうな目標は時間軸(太実線)の近くに、難しいと思うものは時間軸から離して書き込む。

【将来マップ】(10年後のなりたい自分)

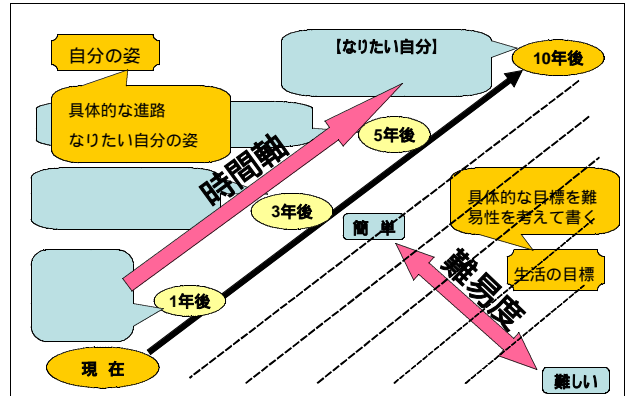


図3 将来マップの構造

【将来マップ】(10年後のなりたい自分)

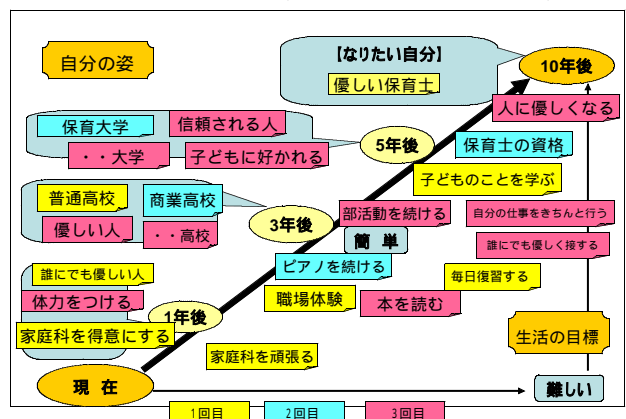


図4 将来マップの記入例

図4は将来の目標を「保育士」としたときの記入例である。〔自分の姿〕の欄の具体的な進路については「高校」や「大学」、内面的な事柄については「優しい人」、「信賴される人」などを書き込む。そして、〔生活の目標〕の欄には「ピアノを続ける」、「本を読む」、「部活動を続ける」といった具体的な行動に関する目標や「誰にでも優しく接する」、「自分の仕事をきちんと行う」などといった内面的な目標を書き込む。この活動を行うことで、将来の夢や目標に向けての自分なりの努力点を明確にすることができると思う。

将来マップの作成

10年後のなりたい自分に向けて、左側の「自分の姿」の欄には1、3、5年後のなりたい自分の姿や進路に関する情報を書き込むことで、将来に

向けての進路や身に付けたい資質や能力など、目標とする自分の姿を明確にすることができると考える。右側の「生活の目標」の欄には、今の自分を見つめ直し、1、3、5年後や10年後の将来に向けての努力点を書き込むことで、これからの生活の目標を明確にすることができると考える。

そして「自分の姿」と「生活の目標」を1枚に表すことで、一つ一つの「生活の目標」がどの「自分の姿」に向けての努力点であるかを明確にし、これからの生活の見通しをもつことができると考える。本実践では、この将来マップの作成を単元の中で3回取り入れることとした。

「将来マップ」は、「生き方探究」の導入場面で行う。10年後のなりたい自分の姿とそれに向けての進路を書かせることで、現時点での進路に対する知識を認識させるとともに将来に対する意識を高める。

「将来マップ」は、仕事調べ学習の後に行う。希望する職業への進路や取得すべき資格等を調べ、将来マップに書き加え、将来に向けての進路や具体的な努力点を明確にする。

「将来マップ」は職場見学学習のまとめ、話し合い、発表会を終えた後に「生き方探究」のまとめの学習として行う。働く人々と触れ合う中で自分で感じたことや友だちの感じてきたことを聴いて、将来の夢や目標に向けての具体的な努力点を「将来マップ」に書き加える。

以上、3回の「将来マップ」の作成を行うことにより、将来マップが少しずつ具体化され、将来への見通しをもつことができると考えられる。

(5) 主な学習活動

本研究では、総合的な学習の時間で配慮する事項の一つである「他者と共同して取り組む学習活動」を取り入れ、探究的な学習を目指した。働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いを実際に感じたり、それらに対する考えを広げ、深めるために、「体験活動」と「話し合い活動」の二つの学習活動を取り入れて学習を進めていく。それぞれの学習活動においては次のことに配慮しながら進めていく。

体験活動

生徒の職業や仕事に対する見方を仕事内容といった外見から働く人々の仕事に対する思いや願いといった内面に向けさせるために地域で企業を営んでいる方をゲスト・ティーチャーとして招いた。今の会社を起こすまでの経緯や今の仕事に対

する思いや願いを語っていただくことで、生徒は進路選択の理由や生き方、働く人々の仕事に対する思いや願いというものを考えることができるようになる。また、自らの将来に対する関心も高まり、生き方や仕事に対する思いや願いといった内面的な事柄を自己課題に設定することができるようになる。と考える。

そして、自己課題を解決するために職場見学を行った。自己課題を職業の意義や目的（「生活維持」、「社会貢献」、「自己実現」）などに設定し、自己課題を明確にもって職場見学を行う。働く人々の姿や職場の様子を見学したり、直接話を聴くことで、仕事に対する思いや願い、喜び、努力点、そして職業選択の理由など、その人の生き方を知ることができると考えた。

話し合い活動

生活班での話し合いは、主に多様な情報を収集したり、考えを広げるために行う。具体的には働く人々の仕事に対する思いや願いをイメージマップに表すことにより仕事に対する思いや願いについての考えを広げたり、地域の事業所について話し合ったりすることで地域の事業所等の情報を得ることができると考えた。

観点別班での話し合いは、観点ごとに話し合うことで考えを深めるために行う。具体的には、自己課題の観点ごとに班を編制し、異業種同士の生徒で話し合うことで、働く人々の仕事に対する思いや願いに対する考えが深まると考えた。

そして、考えを広げ、深める学習のまとめとして観点別班でまとめたことを学級で発表し合う。このことにより、働く人々の仕事の対する思いや願いを知るとともに、自分なりの考えを深め、広げることができると考えた。

(6) 特別活動とのかかわり

本研究は、特別活動の内容である「学業と進路」と深くかかわっている。そこで、特別活動との横断的な学習計画を設定した。

本単元の学習内容である「仕事の内容調べ」は特別活動の「進路適性の吟味と進路情報の活用」として、「将来について話し合おう。」は「主体的な進路の選択と将来設計」として位置づけて行った。このようにして特別活動のねらいと照らし合わせて横断的・総合的な学習として行った。

2 研究の方法

(1) 実践計画

対 象	中学校 1年 A組 37名 B組 36名	期 間	9月30日～12月10日
単元名	生き方探究 16時間	授業者	長期研修員 松原 裕

(2) 抽出生徒

抽出生徒 A	将来の目標は「パティシエ」である。ケーキへの関心が高く、これまでに自分でお菓子作りもしている。職場見学もケーキ屋を希望している。見学したことを参考に具体的な目標を立てさせたい。
抽出生徒 B	将来の目標は「アナウンサー」であるが、職場見学は第2希望の保育園で行った。目標とは異なる職業で働く人々と触れ合うことになるが、そこで働く人々の様子や人柄から自分の目標に向けての努力点を見付けさせたい。

(3) 検証計画

研究仮説	検 証 の 観 点	検証の方法
見通し 1	将来マップの作成を行ったり、ゲスト・ティーチャーの話や友達と話し合う活動を取り入れたりすることは、将来への意識を高めるとともに働く人々の仕事に対する思いや願いを自己課題とするために有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来マップ ・イメージマップ ・自己課題
見通し 2	仕事調べを行うことは将来への見通しをもち、職場見学で実際に働く人々の姿や職場を見たり、直接話を聴いたりする活動を取り入れることは、自己課題を解決するとともに働く人々の仕事に対する思いや願いを感じるために有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来マップ ・自己課題のまとめ
見通し 3	自己課題について観点別ごとに話し合ったり、学級全体で発表し合う活動を行うことは、仕事に対する思いや願いを深めたり、広げたりし、将来マップの作成を行うことは、今の自分を見つめ直し、将来に向けての努力点を見いだすことで、将来への見通しをもって生活するために有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別班のまとめ ・ワークシート ・将来マップ ・3学期の生活目標 (特別活動)

研究の展開

1 指導計画

(1) 単元名 「生き方探究」

(2) 単元の目標及び評価規準

単元名	生き方探究
目 標	将来への見通しをもって生活することができる。
評 価 規 準	<p>ゲスト・ティーチャーの話や友達との話し合い活動を通して、働く人々の仕事に対する思いや願いに自己課題を設定することができる。</p> <p>仕事の内容を調べたり、職場見学で職場の様子や働く人々の話から自己課題を解決し、働く人々の仕事に対する思いや願いを感じ、まとめることができる。</p> <p>将来マップの作成を通し、将来の夢や目標に向けて具体的な努力点を見だし、生活目標にすることができる。</p>

(3) 指導・評価計画

過程	学習内容	時間	指導上の留意点・手だて	学習形態			評価項目等
				自己	生活班	観点別班	
つ か む	1. 10年後のなりたい自分の姿をイメージする。	1	「将来マップ」に将来の夢や目標、具体的な進路を書かせることで将来に対する意識を高める。	将来を 考える			自分の将来の姿を想像できる。
	2. ゲスト・ティーチャーの思いを感じる。	1	ゲスト・ティーチャーに話してもらうことで仕事に対する思いや願いを気付かせる。	思いを 知る			働く人の思いを自分なりに感じ取れている。
	3. 「働く人々の思いや願い」の考えを広げる。	1	「働く人々の思いや願い」をイメージマップで作成させることで考えを広げる。		考えを 広げる		職業の3観点を理解することができる。
	4. 自己課題を設定する。	1	ゲスト・ティーチャーの話やイメージマップを参考にして自己課題（職業の観点）を設定させる。	課題 設定	情報 共有		自己課題を設定することができる。
追 究 す る	5. 仕事の内容を調べる。(特別活動)		仕事を調べさせることで必要な資格や試験を理解させる。	情報 収集			仕事内容を調べることができる
	6. 自己課題の発表と将来マップの修正・追加をする。	1	発表し合うことで自己課題の見直しをさせる。 仕事調べを参考にして「将来マップ」を修正・追加させることで具体的な進路をもたせる。			考えを 深める	将来への見通しを考えることができる。
	7. 職場見学の準備をする。	1	見学マナーの指導を行う。 インタビューの内容を確認させる。	マナー 習得		課題 確認	マナーを知ることができる。
	8. 9. 10. 職場見学で働く人々と触れ合う	3	職場見学をさせることで働く人々の思いや願いを感じさせる。	思いを 感じる			思いを感じるることができる。
ま と め る	11. 自己課題のまとめをする。	3	職場見学のまとめをすることで自己課題を解決させる。	課題 解決			思いをまとめることができる。
	12. 自己課題のまとめの発表をする。	1	観点別班で自己のまとめを発表させることで仕事に対する思いについての考えを深めさせる。			考えを 深める	思いを伝えることができる。
	13. 観点別班のまとめをする。	1	観点別班でのまとめをさせることで仕事に対する思いや願いを整理させる。			考えを 整理	異業種の思いを知ることができる。
	14. 観点別班のまとめの発表をする。(学級発表)	1	観点別班の発表を通して、仕事に対する思いや願いについての考えを深め、広げさせる。	考えを 深め 広げる			思いをまとめることができる。
	15. 「将来マップ」を完成する。	1	自己のまとめ、学級発表を参考にして「将来マップ」を完成させることで、将来への具体的な見通しをもたせる。	見通し をもつ			将来への見通しをもつことができる。
	16. 将来について話し合う。(特別活動)		将来の目標、3学期や2年生での目標を話し合わせ、これからの生活に向けて意欲付けを行う。	目標に向けて の決意			生活目標を立てることができる。

研究の結果と考察

1 つかむ過程で、将来マップの作成とゲスト・ティーチャーを取り入れたことは、将来への意識を高め、自己課題を設定するために有効であったか。

今回の研究において、単元の導入場面で1回目の将来マップの作成を行った。10年後のなりたいたい自分を将来の目標とし、それに向けて1年後、3年後、5年後の自分の姿をイメージして書いた。そして、そのイメージした姿に向け、どのような努力をすればよいかを考えて書いた。

生徒Aは、将来の目標を「パティシエ」としたが、〔自分の姿〕の欄には具体的な進路では、「気持ちを込めて作る」、「自分で考えた食品を作りたい」といった気持ちに関することを書いた。また、〔生活の目標〕の欄には「食べ物のことをよく知る」、「何か作れるようにする」と記述した。

生徒Bは、将来の目標を「アナウンサー」とし、〔自分の姿〕の欄には、進路に関して「専門学校」と書き、〔生活の目標〕の欄には「話す練習」、「ニュースを見る」ということを書いていた。将来マップを書かせることで二人とも将来の目標を自分なりにはっきりさせることができた。

他の生徒は、将来の目標をすぐに書けた生徒となかなか書けない生徒とにはっきり分かれた。しかし、考える時間を確保し、助言をすることによりほとんどの生徒が将来の目標を書くことができた。将来の目標が決まると1年後、3年後、5年後の進路は比較的書きやすいようであった。しかし、抽出生徒と同様に〔生活の目標〕の欄に具体的な努力点を見いだすことは難しかったようであった。多くの生徒が将来の夢や就きたい職業についての考えを漠然とはもっているが、その夢をかなえるためには何をすればよいかという見通しまではもてていない。将来マップを作成させたことで、具体的な進路やどんなことをしていけば自分の夢をかなえたり、希望する職業に就けるのかという思いをもたせることができ、将来への意識を高めることができた。

ゲスト・ティーチャーを取り入れることにより、地域で働く人が今の職業に就くまでの経緯やその仕事を選択したときの気持ちや考え、そして今の仕事に対する思いや願いなどを聴くことで働く人々の仕事に対する思いや願いを気付かせようとした。生徒はゲスト・ティーチャーの話聴くことで、今の仕事を起業するまでの経緯、こころの

葛藤、そして、今の仕事に対する思いや願いを聴くことで、仕事の外見だけでなくその人の内面的な部分に触れることができたと考えられる。

働く人々の仕事に対する思いや願いを個人や生活班でイメージマップに表す活動を通して、働くことの意義や目的に対する考えを広げようとした。自分の就きたい職業とその理由、ゲスト・ティーチャーの話参考にして、イメージマップを個人、そして、生活班の友だちと一緒に考えて作成した。一人で作成したイメージマップの広がりには小さかったが、生活班で作成したイメージマップは図5のように職業・勤労の目的の三観点、生活維持（お金のため、生活のため）、社会貢献（人のため、地域のため）、自己実現（自分のため、趣味や特技を生かして）がすべての班で書かれていた。

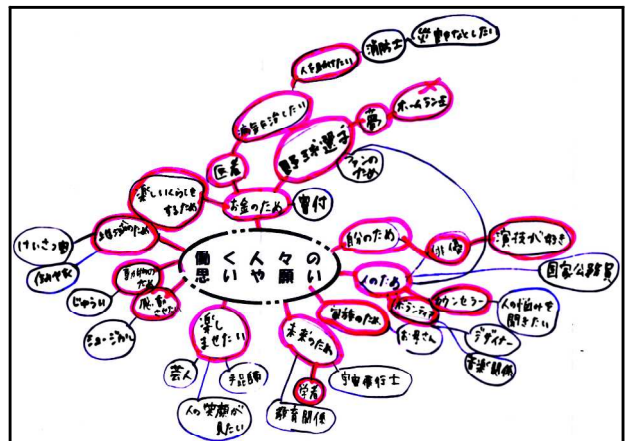


図5 生活班でのイメージマップ

生徒の感想にも、「一人では思いつかなかったことがたくさんあった。働く人はいろいろな思いでやっているんだなあと思った。」ということが書かれていた。生徒は仕事に対する思いや願いについての考えの広がりを実感することができたようである。そして、自分の就きたい職業で働く人々がどのような思いで働いているのか調べてみようとする意欲も高まり、自己課題を設定する上で、有効であった。

2 仕事調べは進路を具体的にするために有効であったか。また、職場見学を取り入れることは、自己課題を解決し、働く人々の仕事に対する思いを感じるために有効であったか。

自分が希望する職業に就くにはどのような進路があるのか。どんな資格が必要で、どんな試験があるのか。そして、その仕事はどのようなことを

しているかをWebページなどを利用して調べた。仕事の内容については生徒もおおよそ見当はついていただが、必要な資格や試験などには新しい発見があった。

生徒Aは、仕事調べの後に、「自分の姿」の欄に「良い高校へ行きたい」、「専門学校へ行きたい」、生徒Bは「大学へ行く」といった将来の目標に向けての具体的な進路が書かれた。「生活の目標」の欄には、生徒Aは「たくさん勉強する」、「良い人間になる」を書き、学習の必要性と人間性について書いていた。生徒Bは、「ニュースを見て頭に入れる」、「楽しそうに話せるようにしたい」など、アナウンサーという職業の特性について書いていた。仕事の内容や進路を知ったことで具体的な目標が書かれ始めた。

そして、自己課題を解決するために、自分の調べたい職業で働く人々に生き方や仕事に対する思いや願いを聴きに実際の職場に出かけた。生徒は働く人々に直接話を聴いたり、職場の様子を見学することで自分なりに自己課題についてまとめることができた。

これまで仕事を外見でしか見ていなかった生徒は働く人々と直接話をすることでその人の内面的な部分を感じ取ることができたようである。生徒の自己課題のまとめには、どの生徒も働く人々の

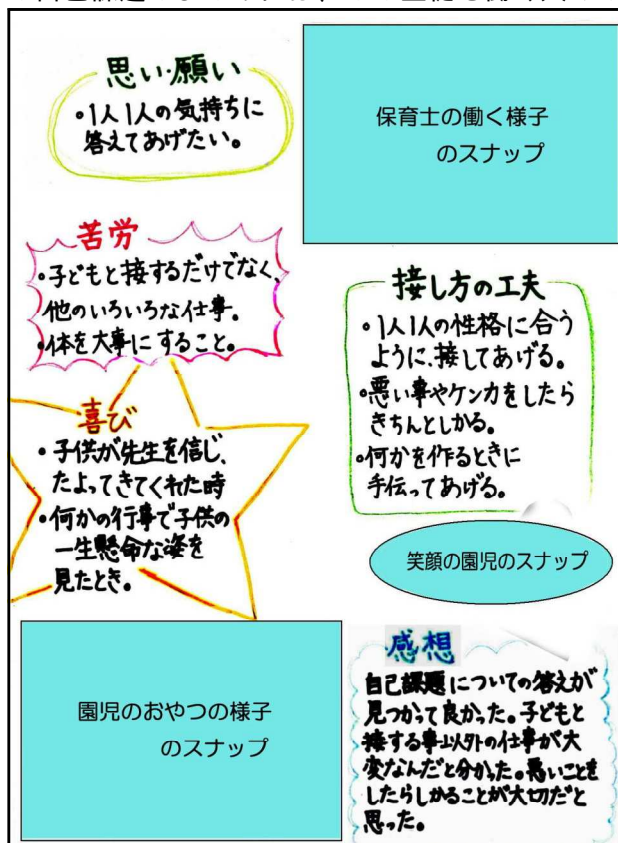


図7 抽出生徒Bのまとめの作品

仕事での喜びや苦勞、工夫などが書かれていた。

生徒Aは、将来の目標としているパティシエのいるケーキ屋を職場見学した。出会ったパティシエの「人のためにきれいでおいしいケーキを作る。」という話を聴き、「ケーキに関する仕事をしたいと思いました。」という感想を書いていた。

生徒Bは、希望の仕事ではなく保育園で職場見学を行い、保育士と会ってきた。保育士の話や働く様子から保育士が一人一人の子どもにあった接し方や話し方をしていることや悪いことに対してはきちんとしかることの大切さなどを感じてきた。群大工学部の准教授に会いに行った男子生徒は、教授から自分の研究の成功に対する喜び、教え子が結果を出した喜びを感じ取ってきた。引率した教員から話が難しかったと聞いたが、見学した生徒の一人は、准教授の「分からないことがあればとことん追究し、結果を出したい。」という研究に対する熱意の言葉が印象に残ったようである。そして、感想の中に「中学とはケタ違いで、これから全力で学習したくなった。これからも理数について学びたくなった。そこで喜べる仕事がしたいと思う。」と書いてあった。

仕事の大変さを感じてきた生徒もいたが、どの仕事も大変であり、その大変さを克服する喜びを感じてきた生徒が多く、そのことを知ってきたことはとても重要で、これからの生徒の生活にも役立つことと考えられる。

生徒はこの職場見学で、働く人々に直接話を聴いたり、職場を見学するという体験を通して、自己課題を解決するだけではなく、自分の課題とすること以外の思いや願いも感じることもできたようである。

3 まとめ過程で、話し合ったり、発表し合う活動を行うことは、仕事に対する思いを深め、広げるために有効であったか。また、将来マップの作成を行うことは、将来への見通しをもつことに有効であったか。

一人一人が職場見学で感じてきた、働く人々の思いや願いをまとめた。仕事の内容や働く人々の生き方、仕事に対する思いや願いを見やすく、そして発表しやすいようにまとめた。仕事の内容だけをまとめるのではなく、働く人々の話やその人の様子や人柄から感じたこと、仕事に対する思いや願いで共感したこと、新しく発見したことを振り



図8 自己課題のまとめの発表

返ってまとめた。働く人々と触れ合うことで、これからの生活で身に付けたい資質や能力にも気付くことができた。

観点別班の話合い後の感想の中に「会社名は聞いたことがあるけど、何をしているのか知らなかったので発表してもらってよかった。」といった地域の事業所の情報が広がったというものから、「色々なところでの働く人の気持ちが聞けて良かった。」「みんなの意見が違い、参考になった。仕事をする人も、その仕事で、思いや願いが違うから、ぼくも考えながら仕事を選ぼうと思った。」などというものもあり、異業種で働く人々の思いや願いを感じ取ることができた。同じ観点においても職種によって喜びや工夫、苦労が異なることも知ることができたようである。観点別班の話合

いや学級の発表会で、地域の職場に対する情報の広がりや働く人々の思いや願いに対する考え方の深まり、広がりを実感できたようである。

そして、将来マップの作成では、働く人々とふれあい、生き方や仕事に対する思いや願いを聞いたことで、〔生活の目標〕の欄に具体的な目標や内面性に関する事柄が書かれるようになった。

パティシエを希望する生徒Aは、図9の将来マップの〔生活の目標〕の欄に「絵を上手に書く」や「自分でデザインした物をつくる」など絵に関することを書いたり、「衛生面に気をつける」、「家で料理を作る」など食品に関することを書いていた。単元の最後の学習の「将来について話し合う」では、これからの生活目標づくりに「家庭で料理を作る」を挙げ、すでに実践もしていた。

生徒Bはアナウンサーに向け、〔生活の目標〕の欄に「中学の勉強をしっかりとやる。」といった学習面と「笑顔で話す」「早口言葉」「人との関わりを良くする」といったアナウンサーとしての資質や能力について書いていた。「笑顔で話す」ということは保育士が子どもたちにゆっくりと笑顔で話しかけている様子に気付き、自分の生活目標に取り入れたものであった。異なる職業での職場見学ではあったが、働く人々と触れ合う中で感じたことから自分の身に付けたい資質を見いだすことができていた。将来マップの作成を行ったことで、その職業に就くまでの進路だけでなく、具体的

的な目標や身に付けたい資質や能力についても考えて目標を立てることができた。

抽出生徒以外では、「野球の素振り」「読書」「友だちへの接し方」など具体的な事柄を生活目標として立て、すでに実践をしている生徒も多く、将来への見通しをもって生活することができた。

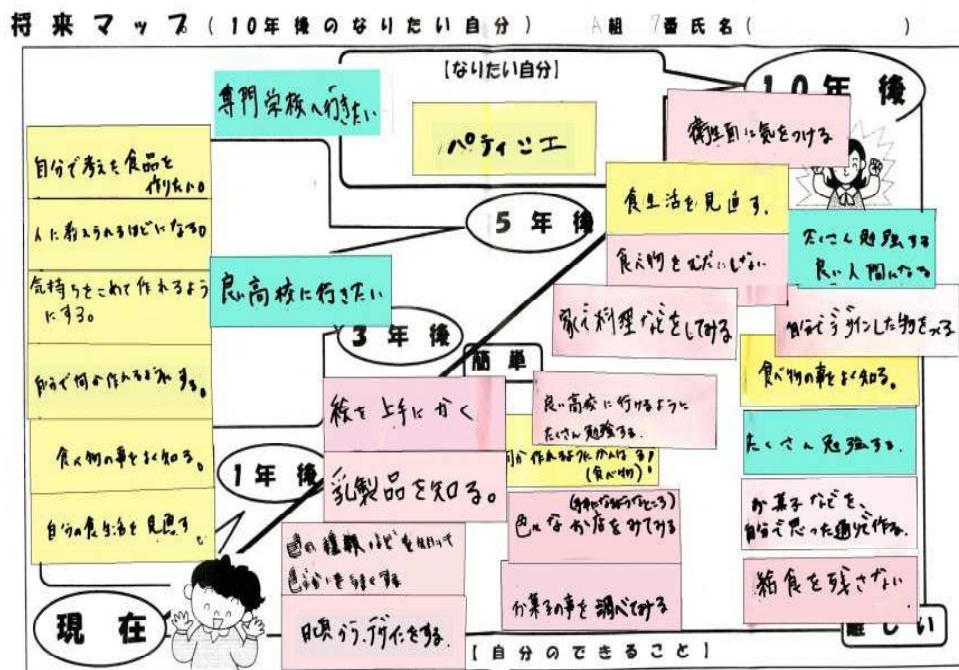


図9 抽出生徒Aの将来マップ

研究のまとめ

1 成果

各過程での成果については「研究の結果と考察」で前述しているのでここでは全体を通しての成果についてまとめた。

働く人々の思いに視点を置いたことについて

「生き方探究」の学習において、働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いを探る学習を取り入れたことは、これまで仕事を外見でしか見ていなかった生徒が、働く人々の内面に気付くようになった。自分の調べたいと思った職業の人々の話ということもあり、真剣な態度で話を聴き、質問もしていた。働くことの苦勞も聞かされたが、工夫をしたり、協力したりしてそれを乗り越えたときの喜びや成就感、達成感、人に喜ばれる気持ちなどを感じてきた。生徒の感想に、「将来、その職業に就きたいという気持ちが強くなった」「好きな仕事であれば苦勞が喜びになる」「将来に向けて役立った」といったことが書かれていた。働く人々と触れ合う活動を取り入れたことにより、自分の希望する職業に就いて働きたいという気持ちを高めることができた。

働く人々の思いを将来マップを取り入れたことについて

生徒は将来の夢や目標について漠然と考えていた。しかし、今回の研究で将来マップの作成を行うことにより将来の夢や目標を意識し、その夢や目標に向けて段階を踏んだ自分の姿を考えて表すことで将来への見通しをもつことができた。そして、働く人々の仕事に対する思いや願いを将来マップに取り入れたことにより、内面的な事柄にも目を向けられるようになってきた。働く人々の仕事に対する思いや願い、誇りや生きがいを感じることで、今の自分を見つめ直し、自分に必要な資質や能力に気付くことができた。その結果、これからの生活目標に身に付けたい資質や能力をあげ、これからの生活で改善・伸長しようとする意欲をもたせることができた。

二種類の話合い活動を取り入れたことについて

話合い活動に二種類の班編制を取り入れたことについて、当初、生徒は戸惑っていた。しかし、観点別班での話合いを行ったところ、異業種で働く人々の生き方や仕事に対する思いや願いを聴いたり、友だちの考えを聴くことで新しい発見や共通点を感じることができ、職業に対する考え方が

広がり、身の回りの職業に対しての見方も広がった。

2 課題

生徒の職場見学学習の感想や自己課題のまとめを見ると、働く人々の言葉から仕事に対する思いや願いに関しての内面的な言葉を聴いてきたことが分かる。その言葉に共感したり、納得したという生徒もいたが、1年生という発達段階からまだ言葉の意味を十分理解できたとは言えない。また、多くの生徒はその意味も分かっていないように感じた。言葉の意味を少しずつ理解できるようにするために生徒の発達段階に応じた体験活動を取り入れるなど、計画的に指導をしていく必要がある。

将来マップを作成することで具体的な進路を意識することはできたが、それに向けての生活目標を具体的にすることは難しかった。特に内面性についての目標を書くことがなかなかできなかった。また、生徒の多くは内面性より学習に関するの方が難しいと感じていたようである。学級活動を中心に「個性の理解と尊重」などの指導において、今まで以上に横断的な指導を行い、自己を見つめる学習や個性を伸長させる学習を行うことが必要である。

話合い活動をねらいによって二つの班で行った。生徒にその目的を伝えたが、観点別班の意味は十分に理解できていなかった生徒もいた。観点別班では考え方を深めることをねらいとしていたが、観点について深められたのは一部の生徒だけであった。また、個人や班での発表に慣れていないため、発表の準備に時間がかかってしまったり、発表で戸惑う場面が見られた。他教科の中でも話合いや発表の機会をもち、効率よく進められるように指導していきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省
『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き』(2008)
- ・西村 克己 著
『ロジカルシンキングが身に付く入門テキスト』
中経出版(2003)
- ・文部科学省・国立教育政策研究所
『研究・報告書・手引編』(2008)

